

## 編集後記

大型で非常に強い台風10号は、九州全域を暴風域に巻き込みながら北上しました。幸いにも予測されていた程度にまでは発達せず、特別警報の発表は見送りとなりました。ある程度台風免疫のある私たちですが、今回はとても緊張感をもって台風に備えることとなりました。クリニックの玄関と裏口に土嚢を積み、窓に養生テープを貼るなど、思いつく対策を行いました。結果として大きな被害がなくほっとしているところです。地球温暖化の影響で、今後も大型の台風やゲリラ豪雨などが危惧されますが、備えを万全にして被害を最小限に食い止めたいものです。

「誌上ギャラリー」には馬場國昭先生より桂離宮です。江戸時代初期に八条宮家の別邸として造営された離宮です。美しい庭園と調和している姿が印象的です。現在では当日の予約でも入場できるようですので一度訪れてみてはいかがでしょうか。

「くすり一口メモ」にはベンゾジアゼピン受容体作動薬について桐野玲子先生より教えていただきました。催眠鎮静薬および抗不安薬として使用する場合、漫然とした継続投与を避けること、用量を遵守し、類似薬の重複処方がないことを確認すること、投与中止時は、漸減、隔日投与等により慎重に行うことが重要です。2018年の診療報酬改定においても、睡眠薬、抗不安薬を3剤以上の処方、1年以上の継続処方に対して処方料、処方箋料の減算がなされるようになりましたので注意が必要です。

「学術」には畠中成己先生より「非チフス性サルモネラ菌血症の7例について」ご寄稿いただきました。病歴、身体所見、血液検査、画像所見では診断が難しく、血液培養検査で診断が確定しています。7例中3例に鶏刺しの摂取があったとのことで、鶏刺し文化のある鹿児島県では、夏場の不明熱の原因になりえる可能性があるため、消化器症状がなくても、サルモネラ菌血症を疑い血液培養検査を行うことが有用のようです。

園田正浩先生より「留置後27年経過したリード抜去にEvolution RL Rotationダイレクターが有用であった1例」についてご寄稿いただきました。植込み型ペースメーカーや除細動器リード周辺の組織癒着、より高度な石灰化組織を剥離するのに有用なデバイスであり、リード抜去術の選択肢のひとつになります。

「医師会病院だより」は婦人科の大塚博文先生からです。婦人科良性疾病の手術を中心に診療を行っていらっしゃいます。術後合併症の観点から術前2週間の禁煙が義務付けられていますが、守られていないケースがあり手術を延期せざるを得ないケースがあるようです。紹介の際に禁煙についても一言確認することも重要です。

「切手が語る医学」には、古庄弘典先生からオーストリア・アルゼンチン・ハンガリー・ブルガリアの切手を紹介していただきました。いつもありがとうございます。

武元良整先生よりビタミンB<sub>12</sub>値が250pg/mL以下の場合に多く見られる自覚症状として「疲労、立ちくらみ」「頭痛」「便秘や下痢」等挙げていただきました。

「リレー随筆」は武 義人先生です。女手一つで育ててくれたお母様への感謝の気持ちが伝わってきます。育つ環境は様々であっても夢に向かって努力することが大切であることを教えてくれます。これからの親孝行が楽しみです。

大型台風が通り過ぎてからは気温も落ち着き秋の気配を感じるようになりました。子どもたちにとっては楽しい運動会シーズンです。各学校があらゆる感染対策を講じながら運動会を開催していくようです。当面は感染対策と社会生活を両立して行くことが求められますね。サッカーJ3鹿兒島ユナイテッドはJ2昇格に向けての正念場。負けられない戦いが続いています。過密日程の中なんとか上位にくらいついてほしいものです。

(編集委員 今村 直人)